

未来へ続く教育【越前市教育振興ビジョン】

<学び続ける力を育む授業の実現> <ともに学ぶ心の育成> <ふるさとに学ぶ教育の推進> <地域と協働した学校づくりの推進>

令和8年度

神山小学校スクールプラン

越前市神山小学校

保護者の願い

- ・思いやりの心をもつ子
- ・積極性や自主性のある子
- ・道徳心あふれる子
- ・礼儀正しい子

めざす児童像

- 助け合い思いやりのある子: 感謝の気持ちを持ち、人にやさしい心で接することができる子
自己有用感を持ち、すすんでつながろうとする子
- よく考え工夫する子: 学習意欲を持ち、すすんで学ぼうとする子
自分の思いや考えを持ち、説明したり表現したりできる子
- 明るくたくましい子: 明るいあいさつのできる子
基本的な生活習慣を確立し、生活力の向上を図ろうとする子

- 〈児童の実態〉
- ・素直で人なつこい。
 - ・元気が良く、仲よく遊ぶ。
 - ・団結して行事に取り組む。
- 〈学校の課題〉
- ・学力の定着を、さらに深める。
 - ・自ら考えたり、自分たちで解決したりする力を育てる。
 - ・自己有用感を持ち、自分に自信をもつことのできる子を育てる。

学校教育目標

自ら学ぶ神山っ子

重点目標

A 学び続ける力を育む授業づくり

- ◎児童が主役の「楽しくよく分かる」授業を展開する。
- 好奇心をもって学びを深める探究力を育成する。
- デジタル学習基盤を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。

B ともに学ぶ心の育成

- ◎一人ひとりの個性や良さを認め合うあたたかい学級・学校の雰囲気醸成する。
- 命の大切さや思いやりの心を育む道徳教育や人権教育を推進する。
- 子どもと子どもをつなぐ活動を充実させる。

C 健康安全教育の推進

- ◎危機管理の周知・徹底を図り、安全・安心な環境を構築する。
- 家庭と連携して、情報を正しく判断し、健全な生活習慣や体力づくりなどで自らの健康と安全を保ち、強くたくましく生き抜く子を育てる。

D 家庭・地域と協働した学校づくり

- ◎ふるさとへの愛着や誇りを育む地域に根ざしたふるさと学習を推進する。
- 夢や希望を育むためのライフデザイン教育を推進する。
- 保護者や地域と学校における双方向の連携を深める。

- ① 個別最適な学びと協働的な学びを充実させながら、児童が主役の「楽しくよく分かる」授業を目指す。
→授業が分かると答える児童 90%以上
- 2 「めあて」を明確にし、「まとめ」「振り返り」の時間を確保することにより、児童自らが成長を感じる授業を実践する。
→授業が楽しいと答える児童 90%以上
- 3 目的や課題に応じたペア・グループ学習により、対話的で創造的な学習活動を展開する。
- 4 読書への関心を高め、本に親しむ資質を育てる。
→本を読むことが好きと答える児童 75%以上

- ① ポジティブ教育を中心に自己肯定感を高め、土台となる集団を安心・安全な居場所にする取組を行う。
→学校が楽しいと答える児童 95%以上
- 2 縦割り班活動・異学年交流の場の確保と支援により、児童の社会性を育成する。
→自分の役割をきちんと果たしている児童 90%以上
- 3 「②がおで ③を見て ④おきな声で ⑤すすんで」あいさつができる児童を育成する。
→「えめおす」挨拶ができる児童 90%以上
- 4 一人ひとりの特性、関心等を把握し、多様性を尊重する学校文化を醸成する。

- ① 学校内外における安全対策や、登下校の安全確保に努める。
→学校のきまりや交通ルールを守り、安全に生活する児童 95%以上
- 2 メディアの利用の仕方と健康の関わりについて、興味関心を高める指導を行う。
→メディアコントロールなどのルールを守る児童 90%以上
- 3 起きる時刻、夕食を食べる時刻、寝る時刻を守り(3点固定)、規則正しく健康な生活を送ることができる児童の育成に努める。
→規則正しい生活を送る児童 90%以上

- ① 町探検や施設訪問、職業学習など、地域の教育資源を活用したふるさと教育を推進する。
→地域に誇りをもつ児童 90%以上
- 2 Home&Schoolを効果的に活用し、学校と保護者との双方向の連携を図る。
- 3 各種たよりの配信や学校ホームページの更新を通し、学校の様子を保護者・地域に積極的に発信する。
→学校の様子がよく分かると答える保護者 95%以上

研究テーマ

学びを深め合うことのできる神山っ子の育成
～ 身につけたい力を意識した「深い学び」となる授業づくり ～

子どもとふれあう時間を増やす業務改善（働きがいと働きやすさを両立し、心身の健康を維持するための働き方改革）

- ① 会議・研修等の時間設定とペーパーレス化
- ② 保護者との連絡やお便りのデジタル化
- ③ Teams、MetaMoJi等の活用による情報共有
- ④ 教材資料のデータベース化と共有化
- ⑤ 目標退勤時刻の自己設定とノー残業デーの励行